

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

井上道義 指揮

がんを乗り越え、「この瞬間に生きる。」をモットーに
音楽に全てを捧げるマエストロ

ハイドン:チェロ協奏曲 第1番 ハ長調

ブルックナー:交響曲 第7番 ホ長調 WAB.107

北村陽 チェロ

若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール優勝
話題沸騰の16歳の新星チェリストが、注目の初登場!

フルツクナーは、
私たちが、心を寄り添わせ、
愛だ。
生かしてやる。

読売日本交響楽団 第232回 土曜マチネシリーズ

2020 **11.28** 土 14:00
東京芸術劇場コンサートホール
S¥7,600 A¥5,600 B¥4,600 C¥4,100

読売日本交響楽団 第232回 日曜マチネシリーズ

2020 **11.29** 日 14:00
東京芸術劇場コンサートホール
S¥7,600 A¥5,600 B¥4,600 C¥4,100

読響チケットセンター 0570-00-4390
(10時~18時・年中無休)

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
共催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
助成:文化庁文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

※マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

鬼才・井上道義が導く、
自然と人類への愛に満ちた
ブルックナーの至高の響き。

井上道義 (いのうえみちよし/指揮)

今を生きる“カリスマ”指揮者。1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。ニュージーランド国立響首席客演指揮者、新日本フィル音楽監督、京都市響音楽監督、大阪フィル首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。シカゴ響、ハンブルク響、ミュンヘン・フィル、スカラ・フィル、レニングラード響、フランス国立管など共演。2007年「日露友好シオスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」で成功を収めた。14年4月、病に倒れるが同年10月に復帰。17年の大阪国際フェス「バーンスタイン：ミサ」を成功へと導き、19年〈ドン・ジョヴァンニ〉も高く評価された。15年〈フィガロの結婚〉(野田秀樹演出)では、総監督として10都市の巡回公演を成功へと導き、今秋に再演。渡邊暁雄基金特別賞、東燃ゼネラル音楽賞、大阪文化賞など受賞多数。

今までの価値観が崩れていくような、驚くべき一年だった。世界は脆くも一変してしまった。日本では2月末からは演奏会も開くことができず、私たちは握手ができないばかりか、ライブの音楽でさえ共有できない日々が訪れた。皆が、目に見えない敵と闘い、これほどの苦しい沈黙が訪れようとは。ようやく7月から次第に演奏会活動も再開され、10月からは客席数の規制も緩和された。舞台上のディスタンスも徐々に緩和され、どうにか11月末にブルックナーの交響曲第7番を演奏できることになった。

この曲目は、指揮者の井上道義が強く希望したものだ。昨年7月のミューザ川崎で井上道義と読響が演奏したブルックナーの交響曲第8番は、井上が自身のブログに「僕の人生の中で白眉の結果だった」と綴ったほどで、会場は盛大なブラボーに包まれた。井上が、読響との次の共演に選んだ曲は、ブルックナーの最高峰の傑作、交響曲第7番だった。

突如訪れた世界の変化に井上は、「音楽は命がけでやるに値するもの」と当初は語気を強めていた。その後、次第にこの状況を受け入れ、「ひょっとしたらウイルスにも感謝です・・・なぜなら不思議な特別感がある時期となったから」と前向きに捉えるようになっていた。2014年にがんを克服し、音楽に全身を捧げている井上ならではの凄みを感じた。

ブルックナーの交響曲第7番は、地球の大自然への敬意と人類への温かな愛を感じさせるものだ。人々が互いに手を取り合って生きると、幸福感に満ちている。その象徴は、力強くも歓喜にあふれたフィナーレにも表れている。この音楽は、人々が触れ合うことを制限され、人間らしさとは何かと考えさせられる今、私たちに深く響くものになるだろう。私たちが触れ合わずに音の振動だけで心を通わすことのできる「音楽」は、この先さらに大きな力になるのかもしれない。井上と読響が紡ぎ出すブルックナーに、音楽の持つ力を託したい。演奏後にブラボーが飛ばなくても、揺るぎない沈黙に私たちは心を通わすことができるはずだ。

前半には、16歳の新鋭チェリスト、北村陽が読響に初登場する。2017年の「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」で優勝し、一躍注目を浴びた。弾くのは、ハイドンのチェロ協奏曲第1番。フレッシュな才能が、意気揚々と伸びやかな旋律を奏することだろう。外国人演奏家の来日が制限されている今こそ、日本の若い世代の奏者がチャンスを掴み取ってほしい。



北村陽 (きたむらよう/チェロ)

2017年「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」で優勝した新星。2004年兵庫県生まれ。9歳でオーケストラと初共演。小林研一郎、大友直人、藤岡幸夫、アンドレイ・フェーヘルらの指揮で、関西フィル、東京響、東京フィル、大阪フィル、兵庫芸術文化センター管などと共演。18年5月、ロシアでのチャイコフスキー国際青少年フェスティバルに招待された。山崎伸子、太田真実、ギア・ケオシヴィリ各氏に師事。17年、関西元氣文化園賞ニューバニー賞受賞。18年の芸術×読響ジュニア・アンサンブルアカデミーを受賞。18年度よりヤマハ音楽支援制度奨学生。使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与されている1668年製「カッシーニ」。読響初登場。

©高木ゆりこ

読売日本交響楽団 第232回 土曜マチネシリーズ

2020年 **11月28日(土)** 14時開演
S¥7,600 A¥5,600 B¥4,600 C¥4,100

読売日本交響楽団 第232回 日曜マチネシリーズ

2020年 **11月29日(日)** 14時開演
S¥7,600 A¥5,600 B¥4,600 C¥4,100

東京芸術劇場コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

●JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分
(※駅地下通路2b出口と直結しています)

託児サービス 東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。わらべうた0120-415-306(予約受付:平日9時~17時) **学生券** 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296